

THE RECORD

6

1999
No.475

- 「音楽コンテンツのネットワーク流通に
関するレコード産業の考え方」公表
- 音楽産業・文化振興財団報告
- 統計資料-耐久消費財の保有状況

RIA

Recording Industry Association of Japan

音楽コンテンツの流通に関して

最近のデジタル化とネットワークを利用した高度情報化の進展は、社会のあらゆる分野に様々な影響をもたらしていますが、とりわけ音楽の著作物はこれらの状況に馴染みやすく、しかもその利用方法、利用技術が簡便なため急速に進展しています。

その結果、音楽を事業として利用する産業をはじめ、個人的に享受するエンドユーザーなど広い範囲において、音楽に関わるコンテンツを、通信ネットワークを介して手軽に入手しようとする動きが生まれつつあります。同時にこうした手段によって入手する音楽情報への需要は、社会全体の情報化の進展に伴って益々高まる傾向にあると言えます。

当協会では、このような社会情勢の中、現在のレコード産業の状況を正確に認識して頂くために、下記の『音楽コンテンツのネットワーク流通に関するレコード産業の考え方』を4月7日付で公表しました。

音楽コンテンツのネットワーク流通に関する レコード産業の考え方

1. 音楽産業は現在パッケージ流通による「創造のサイクル」によって支えられている。

- i. 音楽産業にとって最も重要なことは、常に新しい音楽を創り出しそれを世の中に広めていくクリエイティブな部分、即ち制作・プロモーション部分に間断なく投資が行われ、この部分の活動が常に活性化されていることである。
- ii. このようなクリエイティブな部分に投資が続けられ、常に新しい才能、新しい楽曲へのチャレンジが続かない限り、音楽産業は先細りとなり、音楽に夢と心の安らぎを求める多彩なユーザーの要求に応えられない。
- iii. 一方、この創造的な活動への投資は、常に高いリスクを伴っている。このような“ハイリスク”を乗り越えて、なお創造的産業活動への投資を可能にしているのが「著作権・著作隣接権制度」である。
- iv. 特に、著作権・隣接権のルーツともいえるべき「複製権」は、音楽産業のみならず、映像産業などクリエイティブな産業活動の基盤となるものであり、事実、この「複製権」に守られた音楽パッケージ商品の流通システムは、作家やアーティストを含めた音楽産業全体を支えている。作家の収入ともいえるべきJASRACの使用料徴収額において、その90%以上がパッケージ商品のヒットに係る収入で占められているのもその証左といえる。
- v. CDというパッケージ商品の売り上げによる収益が、次の新譜の制作及び新人アーティストの育成等に投資されている。いわゆる「創造のサイクル」である。我々レコード産業は、安易に或いは無責任に音楽パッケージ商品を過小評価し、自ら「創造のサイクル」を壊すようなことはしない。

2. 音楽コンテンツのネットワーク流通は、現在のパッケージ流通にプラスされる形で導入される必要がある。

- i. 音楽パッケージ商品は、現実「創造のサイクル」をまわし、実質的に音楽産業を支えているが、一方音楽コンテンツの主体となるアーティストにおいても、このパッケージ商品に対しては自分の音楽的な感性にとどまらず、ビジュアルな面も含めたトータルなメッセージをユーザーに届ける媒体として重要な意味を持っている。

- ii. このような観点から、将来的にも音楽コンテンツ商品の主体はあくまでもパッケージ商品と考える必要があるが、一方でネットワーク流通には、現在のパッケージ商品が潜在的に抱えている問題への解決策も含んでいる。ユーザーの要望に応えられるきめ細かな試聴機能、品切商品・廃盤商品或いは夜間・休日等の対応など、又、レコード店に足を運ばない中高年層に対する新流通ネットや新人アーティストのプロモーションと販売、店頭在庫の軽減等、既存のパッケージ販売にプラスオンする流通としての機能が期待される。
- iii. 但し、これらはあくまでも現在の全体的な音楽産業を支えている「創造のサイクル」が維持されることを前提としている。しかしながら、現在のネットワークインフラと隣接権者に送信権が付与されていない法制度の下では、「複製権等」の行使を全うさせ「創造のサイクル」をネットワーク上で実現することは不可能である。
- iv. 我々レコード産業は“パッケージ”の基盤を守りつつも、ネットワーク流通の利点を音楽産業の拡大のために利用すべく、種々の取り組みをスタートさせている。
- ① デジタル音源への“ISRC” (International Standard Recording Code.) の付与 ② 総合音楽データベースの創設 ③ “SDMI” (Secure Digital Music Initiative) への取り組み等である。
- 「WIPO著作権条約」「WIPO実演・レコード条約」など法的枠組みの整備も世界的規模で進められている。
- v. これらの取り組みが実現される中で、我々レコード産業は技術面、法制面から音楽の安全性を確保すべくステップを踏みながら、「音楽創造のサイクル」をより発展させるために、作家やアーティストを含めた音楽産業全体で、音楽コンテンツのネットワーク流通のあり方について議論をしていくことにしたい。
3. 以上の観点から、現在の「パッケージかネットワークか?」という問題提起は、いたずらにユーザー及び業界全体を惑わすものであり、「音楽創造のサイクル」を破壊しかねない議論であるため、慎重な対応が求められる。

以上

スターデジオ訴訟口頭弁論報告

SDMI連絡会議の設置

5月に行われたスターデジオ訴訟第五回口頭弁論について報告いたします。

1. 第一次訴訟（5月13日）

当日、被告第一興商及び日本デジタル放送サービスから準備書面が陳述されました。

次回、原告側から反論の予定です。

第6回口頭弁論期日：7月13日（火）11：40

2. 第二次訴訟（5月18日）

当日、被告第一興商から準備書面が陳述されましたが、被告が更に詳細な主張を次回迄に提出することとなりました。

第6回口頭弁論期日：7月13日（火）11：30

場所は両訴訟とも、東京地方裁判所622号法廷です。

一般の方の傍聴も可能ですので是非一度お越し下さい。

音楽産業が中心になり、デジタルコンテンツ保護のための仕組みを世界規模で実現する目的で、SDMIが2月から活動を開始しました（3月号で既報）。関連情報を会員社に提供する作業は、当協会内のデジタル音楽情報委員会・MMWGが担当することで進めてきましたが、内容が技術や法制などの専門分野であることや、スピーディな対応の必要から、これを見直すこととし、あらたに「SDMI連絡会議」を設置しました。目的は全社にもれなくスピーディに情報提供を行ない、意見交換の結果を当協会としてSDMIに反映することです。

4月28日開催の第1回会議において、SDMIに関する現在までの状況ならびに今後の活動方針を説明し、併せて富塚議長（当協会副会長）、田中運営幹事（技術委員会幹事）を選出しました。

音楽産業・文化振興財団報告

(財) 音楽産業・文化振興財団、韓国の音楽団体、駐韓日本大使館を訪問

財団法人音楽産業・文化振興財団は、3月22日～24日の3日間、韓国ソウル市の音楽関係団体並びに駐韓日本大使館を訪問しました。

この韓国訪問には、松尾理事長（当協会理事）をはじめ、渡邊副理事長（音楽出版社協会会長）、木村理事（当協会専務理事）、上野評議員（音楽事業者協会専務理事）、金子事務局長等5人の財団関係者と、通商産業省文化関連産業課高橋課長が特別に参加しました。

この訪問は、現在韓国で進められている日本文化開放政策が、韓国の音楽業界にどのような影響をもたらしているのか、また日本文化開放後の日韓両国の音楽交流はどうあるべきかをテーマに、韓国の各音楽関係団体のトップの方々との話し合いの場をもつことを目的としたものです。

訪問した韓国の音楽関係団体は、KOMCA（韓国音楽著作権協会／会長 金 英光）、KMPA（韓国音楽出版社協会／会長 邊 大潤）、IFPI（国際音盤産業連盟／会長 尹 汝乙）、KAPA（韓国芸術実演者団体連合会／会長 尹 通雄）、韓国映像音盤協会（会長 林 慶秀）の5団体です。

日韓両国の音楽業界の発展と音楽文化交流を強化し、相互協力を図って行く上で、今回の訪問は良いタイミングであり、両国の音楽業界にとって大変意義深いものとの声が各団体から寄せられました。

また、一行は駐韓日本大使館からも大変暖かな歓迎を受け、小倉大使ご夫妻をはじめ、多くの大使館のスタッフとも意見交換の場を持つことができました。

財団では、韓国との音楽交流の一環として、4月14日～18日の5日間ソウル市で開催された「'99日本文化産業博覧会」にも積極的に参加し、会期中の4月15日に今回の訪問でお世話になった各団体や日本大使館の方々を招き、博覧会の視察に来る日本の音楽関係者との懇談の場を設定しました。

1999年度財団事業計画の「音楽調査研究事業」では、韓国の音楽産業界を調査研究することに決定しており、9月にこの事業を実施する為、韓国に音楽調査団を派遣する計画も立てています。



(韓国音楽出版社協会で挨拶する松尾理事長)

(財) 音楽産業・文化振興財団「Japan Culture Expo Seoul '99」に参加！

前述の博覧会は、韓国における日本文化開放政策の一環として、日本の文化を総合的に紹介するという初めてのイベントでした。

会場は、日本の音楽、映画、ゲーム等のメーカーをはじめ地方自治体等も参加しました。

これは、現在韓国国内では禁じられている日本語のCDを自由に聴くことや、日本人アーティストのライブビデオ・プロモーションビデオを自由に視聴できるという画期的な催しでした。

当財団は、この会場に6ブース（約54㎡）を確保し、CD試聴機3台、大型テレビを設置し、来場者に邦楽CDを自由に聴いてもらったり、音楽ビデオを自由に視聴してもらいました。

ブースには初日から沢山の音楽ファンが殺到し、朝から閉館までCD試聴機の前にはファンの列が途切れることなくつづいていました。

このブースでは「第13回日本ゴールドディスク大賞受賞作品」全てのCDの他、レコードメーカー各社から寄贈のCDの展示や、メーカー各社及び音楽団体から提供されたライブビデオ・プロモーションビデオ上映を行い、また財団、音

楽関係団体紹介パンフレットも配布しました。

来場者からの日本の音楽に対する問い合わせや、音楽団体に対する質問にも対応し、スタッフは息つく間もないほどの状況でありました。また、日本音楽に関するアンケート調査も実施し、約2,000名の方にご回答頂きました。

今回の来場者数は、初日が約5,000名、2日目が約7,800名、3日目が約7,400名、4、5日目の土日は両日共15,000名強の来場者があったと予測され、期間を通しては50,000名以上の方が訪れたものと思われます。

日本の文化が完全に開放された暁には、少なくとも音楽産業界は韓国と日本の関係が、現在の「近くて遠



(音楽産業・文化振興財団が開設した博覧会内ブース)

い国」から「近くて近い国」になることを痛感させられました。

なお、この博覧会開催中の4月15日、財団の主催で「韓日音楽関係者交流パーティ」を開催しました。韓国の音楽関係団体のトップの方々と、視察に来られた日本の音楽関係者並びに駐韓日本大使館の公使等を交えてのこの会には、100名強の人が集まり、会場内の

あちこちで韓日音楽関係者の和やかな懇談の輪が広がっていました。

尚、同財団は日本大使館の公報文化院にある試聴室に、日本の音楽を自由に聴けるように展示品（シングルCD/27枚、CD92枚、ビデオテープ/14巻）を寄贈しました。

『日本音楽情報センター』（北京市）開設式典盛大に開催される！

（財）音楽産業・文化振興財団が北京市に開設準備を進めていた『日本音楽情報センター』が5月24日にオープンしました。

当日午前11時、センター前に日本側から松尾理事長をはじめ、渡邊副理事長、池口理事（当協会会長）等財団の代表者7名と、谷野作太郎日本駐中国大使、中国側からは郭向鷹音楽生活報社社長をはじめ、王光英全人大副委員長等、中国の音楽界を代表する方々8名が集合し、郭社長、松尾理事長による開設の挨拶に続き、王全人大副委員長、谷野日本大使が祝辞を述べた後、中日両国の多数の取材の中16名の来賓により華やかなテープカットが行われました。

式典後、参加者全員が混雑しているセンター内を視察し、センターが充実した機能を持っていることへの感嘆の声と「今後、中日両国の音楽交流の拠点として、このセンターに大いに期待している。」との声も聞か

れました。

午後6時半より、ケムピンスキーホテルに場所を移し、郭社長、松尾理事長による中日のマスコミ関係者約30名を招いて合同記者会見が行われました。

会見では、郭社長、松尾理事長からセンター設立の趣旨、設立経緯等が詳細に語られました。

引き続き同ホテルのパーティ会場において、『センター開設祝賀パーティ』が盛大に開催されました。

パーティには、中国の音楽関係者が約80名、駐華日本マスコミ関係者、日本駐中国杉本公使、吉澤公使をはじめ大使館関係者等約30名、日本の財団関係者20名、総計約130名の人達が参加しました。

祝賀パーティは、松尾理事長の挨拶に続き、張中国軽音楽協会会長、杉本公使が祝辞を述べられ、池口理事の音頭による乾杯の後、懇談に移りました。会場内では中国語、日本語が飛び交い、通訳を交えて両国関係者の懇談の輪があちこちで広がり、大変賑やかなものになりました。

またこのパーティに参加していたアーティストのアントニオ古賀さんが飛び入りで歌唱され、古賀メロディーの名曲の数々を披露し、さらに中国からは若者に人気のある歌手、葉凡さんが舞台上がり素晴らしい歌声を披露すると、会場内は一層華やかな盛り上がりを見せ、まさに中日両国の音楽交流の場となりました。最後に財団を代表して渡邊副理事長の丁寧な挨拶をもってパーティはお開きとなりました。



（日本音楽情報センターの視聴ルーム）

韓日大衆音楽民間交流協議会メンバーと当協会幹部懇談

去る5月26日、韓国の「韓日大衆音楽民間交流協議会」のソ・ヒドク会長をはじめ同協議会の主要なメンバー11名が当協会を訪れ、今後の韓国と日本の大衆音楽交流について意見交換を行いました。

同会ソ・ヒドク会長は「韓日外交の中で韓国国民全てが関心を持っているのは、スポーツ交流と文化交流である。今回は、文化交流の面で、文化産業の中心である音楽産業について話し合いを持つために来日した。」と挨拶され、懇談に入りました。

同協議会のメンバーは、5月25日の来日から29日の離日まで、レコード店、日本音楽著作権協会、音楽産

業・文化振興財団、日本レコードセンターなど音楽に関わる諸権利者・業界団体等を精力的に訪問して情報交換を行い、交流を深めました。

また、5月27日には、当協会主催の歓迎懇談会を開き、通商産業省高橋文化関連産業課課長、文化庁松元芸術文化課課長、同石野国際著作権課課長が同席されるなか、当協会池口会長が我が国の音楽産業を代表して歓迎の挨拶をし、和やかな雰囲気の中、友好が深められました。

著作権関係・他

不正競争防止法の一部改正法成立

4月に国会を通過した不正競争防止法の一部改正法は、10月1日に発効することが決まりました。

新しい規定は、ネットワーク上を流通するデジタル・コンテンツを保護するために使用されている技術的制限手段の効果を妨げることを不正競争と位置づけ、このような手段を無効化する機器やプログラムの販売等の行為を規制します。

保護されるのはコピーやアクセスをコントロールするために使用されている技術で、その技術的手段は特定されていません。

技術的手段の無効化によって侵害を受けたり、受ける可能性があるコンテンツ提供事業に関わる者は、その機器やプログラム提供者に対し、差止請求、損害賠償請求を行うことができます。

IFPI中央理事会開催される

5月19日、ニューヨークにおいてIFPI中央理事会が開催されました。

今年1月、ジェイソン・パーマン氏がIFPIの代表者に就任しましたが、今回の理事会で、IFPIの最高責任者（CEO）として正式に承されました。

IFPIの最大目標である、海賊撲滅対策については各国レベルの海賊対策と国際的なネットワーク上の違法対策を、法整備についてはWIPOの2つの条約批准へ向けた各国レベルの積極的な取り組み推進が確認されました。

これら執行と法制の他、レコード産業に直接影響を与える新しい技術に対応するため、SDMIのプロセスを通じて安全環境の構築を推進していくことも確認されました。

また、IFPIの名称を国際レコード産業連盟の略称として使うのではなく、IFPIを正式名称とすることが決定されました。従って、今後は、IFPIのみの表示とし、必要があれば"representing the international recording industry（世界のレコード産業を代表して）"という表現を付け加えることとなります。

IFPIのガーネット事務総長来日

5月10日、IFPIの事務総長であるニコラス・ガーネット氏が来日しました。

同氏は当協会会長、役員、職員と、SDMIへの取り組みとWIPO条約批准のための法改正状況等について情報交換を行いました。

CR齋藤会長旭四を受章

当協会の元理事で、現日本クラウン社社長の齋藤昇氏がこの度の春の叙勲で勲四等旭日小綬章を受章されました。

同氏は日本クラウン社の経営者として数多くの功績を築かれてきました。

また、長年当協会の要職に就き、多方面に亘り業界

発展のためにご尽力されました。

なお、5月11日に国立劇場で伝達式、つづいて皇居で拝謁が行われました。

理事会・総会開催

5月28日（金）、キャピトル東急ホテル「京都の間」において、定例の当協会理事会・総会が開催され、平成10年度事業報告、収支計算書、11年度の事業計画書の一部修正が承認されました。

不正商品対策協議会 ほんと？ホント！フェアIn大阪

不正商品対策協議会は、1986年に、商標関係と著作権関係団体によって設立されて以来、不正商品防止キャンペーン等を通じて、知的所有権の保護・思想普及活動を行っています。

近年不正商品への関心が高まる中、具体的に一般の人々がどのくらいまで、不正商品に対する意識や興味を持っているのかという実態はなかなかつかめません。そこで不正協としては、一般大衆を対象として、不正商品に対する認識を深めてもらう目的で「ほんと？ホント！フェア」を毎年開催しています。

今年は大阪市「鶴見はなぼ〜とブロッサム」にて5/15（土）16（日）の両日開催しました。広場に作られた展示コーナーでは不正商品と真正品を展示して、それに基づくクイズやアンケートを行ったり、パソコンを使ったクイズなどで来場者にアピールすると同時に、ミニステージでは大阪府警察音楽隊による「さわやかコンサート」と大阪府警察本部による「こどもミニ劇場」や「警察犬実演」、芸能人のステージとトークショー、会場の来場者に不正商品関係のクイズを出してその答えを解説する「ホンモノはどれだ！」などのイベントも行いました。

同フェアには2日間の開催で30,000人が来場し、大盛況の内に閉会致しました。

尚、現在同協議会には、日本映像ソフト協会、日本商品化権協会、コンピュータソフトウェア著作権協会、日本音楽著作権協会、日本芸能実演家団体協議会、日本国際映画著作権協会、ユニオン・デ・ファブリカン、そして当協会の8団体が会員として参加しています。

チェコ製海賊版CD訴訟控訴審へ

既報の通り、エー・アール・シー（株）等がチェコで製造し、日本国内に輸入・頒布していたCD、カセットテープ約51万枚/巻について、著作隣接権者（実演家）の許諾を得ない違法商品として、日本コロムビア等レコード会社5社が提訴していた事件について、4月14日、東京地方裁判所は、原告側の請求を全面的に認め、輸入・頒布の禁止、在庫品の廃棄及び損害賠償金の支払いを命ずる判決を下しましたが、被告側はこれを不服として、5月6日控訴いたしました。

今後は、東京高等裁判所で審理が行われる予定です。

世界の話

IFPIによる1998年の世界売上げ

IFPIが4月末、昨年の売上げを以下のように発表しました。

世界売上げはアメリカの成長と世界のCD売上げの6%増加に支えられ、合計で3%増の387億米ドルに達した。(97年は金額で2%、数量で3%増)

音楽需要は特に北アメリカとヨーロッパの一部で強く、開発途上市場の激減を相殺した。アジアは特に経済混乱の影響を受け、日本を除いたアジアの売上げは金額で30%落ち込んだ。

世界音楽売上げは、数量で1%減の41億巻/枚だった(カセットからCDへの移行とアジアのカセットの激減のため)。

シングルは昨年記録的なヒットを出した「キャンドル・イン・ザ・ウィンド」の後遺症で11%減となった。

北アメリカ

アメリカは過去4年間、金額で11%増、数量で7%増の好調な成長を記録した。カナダは金額で4%、数量で1%増。

ヨーロッパ

EU音楽市場は金額で3%増、数量で2%増となったが、国によって大きな差があった。最大市場であるイギリスは金額と数量とも4%増。フランスは数量で2%と金額で4%の増。ドイツは金額2%数量1%の減。スペインは1997年から好調な伸びを継続し、金額で16%、数量で10%の増加。スウェーデンは良好な成長を示したが、オランダは好調だった1997年に比べ落ち込んだ。東欧は、ポーランドで13%の金額増、ロシアの17%の金額減。

アジア

日本は金額で4%、数量で2%減。日本を除き、経済危機の影響を受けたアジアは金額で30%、数量で10%減。インドのみ2%増。

ラテンアメリカ

最近にない減少で、金額で9%、数量で5%の減。ブラジルは金額で14%、数量で10%の減。メキシコとアルゼンチン、その他大きな市場はそれぞれ数量において5%と2%の伸び。全体的にこの地域のCD売上げはブラジルとコロンビア以外は3%増。

その他

オーストラレーシアは数量で4%増、金額は横這い。中東はバーレーン、エジプトおよびカタールが高い成長を記録したが、地域全体では数量3%、金額5%の減。南アフリカは横這い。

フォーマット

アジアと中東以外ではCDが増加。特にアメリカ、カナ

ダ、メキシコ、イギリス、フランス、スペインでは急増。全アルバムのCD売上げは、1997年は60%、98年は65%を占める。

カセット売上げはあらゆる地域(特に北アメリカ、東南アジア、ロシア、ヨーロッパ大市場)で減少。

キャンドル・イン・ザ・ウィンドの影響で殆ど全ての国のシングル売上げは減少。

RIAA、MP3に関するホーム・ページ

RIAA(アメリカレコード協会)が音楽ファンに向けて書いているMP3に関する訴えです。

MP3は音楽をデジタル形式で圧縮し、コンピュータネットワークに簡単にアップロードできるようにする技術です。自分自身の作品のためにMP3技術を使用しているアーティストもいます。RIAAと私たちの会員は、権利者が彼等の技術を選択使用する権利を含め、著作権者の権利を支持します。しかし、アーティストまたはレコード会社の許諾を得ずにMP3形式でインターネットに載せられている楽曲が何千曲もあります。他人の音楽を自由に配信することはフェアではありません。だれも、自分の財産を無許可で頒布されたくはないはずです。アーティストはどうしてこのような扱いを受けるのでしょうか。

私たちは、MP3は安全な技術が施されていないと警告してきました。この形式では何でもコピーできて、簡単に再コピーできて、配信ができます。私たちは、アーティストやレコード会社が保護を望んでも、それができないMP3について懸念を抱いています。近い内に、この形式でアーティストや楽曲に投資した人たちの作品が大切に扱われ、音楽が保護され、最高の音楽を簡単に手に入れられる方法が現れるでしょう。

事実、私たちの会員は音楽配信をそれぞれの方法で行っています。毎日のように技術会社がしばしば音楽業界のパートナーと一緒に新しい技術の発表をしています。そして、大手技術会社もセキュリティ・システムを組み込み、著作権保護を支援しています。これらの努力を私たちは支持しているのです。

私たちは、皆さんがオンライン音楽を待ち望んでいるのを知っています。しかし大好きな曲を作り出すアーティストを大切に思って、どうか辛抱してください。ビッグ・アーティストの楽曲を盗用しないでください。MP3を楽しめるようになるまで、そうながくはかかりません。

会議メモ (主なもの)

(5月1日～5月31日)

5・7 カラオケ対策委員会合同P会議

5・10 レコード制作基準倫理委員会
日本音楽家ユニオン交渉・委員会

5・11 インターネット部会サイト運営WG会議

需要拡大委員会

5・12 業務委員会

5・13 著作権部会・幹事会
洋楽部会

5・14 二次使用料委員会

5・20 需要拡大委員会WG
洋楽企画専門部会

5・21 SDMI打ち合わせ

5・24 ビデオ部会

5・25 技術委員会

洋楽宣伝専門部会

デジタル音楽情報委員会

法制委員会

5・26 著作権部会幹事会

5・27 需要拡大委員会制作WG

5・28 理事会

5・31 日本GD大賞幹事会・演出部
会合同会議



HIT CHART DATA

1999年4月度(99年3月21日~99年4月20日)

レコード正味売上げに基づく当協会オフィシャルデータ。

順位	タイトル	アーティスト	発売日	発売元
■邦楽・洋楽合同シングル BEST7				
1.	my first love	上原多香子	1999.03.25	TF
2.	MISS YOUR BODY	globe	1999.03.25	AVT
3.	Believe Your Smile/OPEN THE GATE	V6/20th Century	1999.03.31	AVT
4.	LOVE~Destiny~/LOVE~Since 1999~	浜崎あゆみ/浜崎あゆみ&つんく	1999.04.14	AVT
5.	なんて恋したんだろう	DREAMS COME TRUE	1999.03.31	TO
6.	THE CHANGING	松本孝弘	1999.03.25	BM
7.	MIND GAMES	ZARD	1999.04.07	BG
■洋楽シングル BEST7				
1.	Eyes On Me featured in Final Fantasy VIII	フェイ・ウォン	1999.02.24	TO
2.	マイ・ハート・ウィル・ゴー・オン~タイタニック・愛のテーマ~	セリーヌ・ディオンの	1998.01.14	SME
3.	ティアーズ・イン・ヘヴン	エリック・クラプトン	1997.10.25	WJ
4.	ノー・スクラブズ	TLC	1999.03.25	BMG
5.	ピリーヴ	シェール	1999.01.15	WJ
6.	アイ・ドント・ウォント・トゥ・ウエイト	ポーラ・コール	1999.03.25	WJ
7.	TO LOVE YOU MORE	セリーヌ・ディオンのwithクライズラー&カンパニー	1995.10.21	SME
■邦楽・洋楽合同アルバム BEST7				
1.	First Love	宇多田ヒカル	1999.03.10	TO
2.	Every Best Single+3	Every Little Thing	1999.03.31	AVT
3.	SA	鈴木あみ	1999.03.25	SME
4.	FIRST REPRODUCTS	globe	1999.03.31	AVT
5.	Precious	Cubic U	1999.03.31	TO
6.	baby Blue	Hysteria Blue	1999.04.01	SME
7.	花鳥風月	スピッツ	1999.03.25	PO
■クラシックアルバム BEST7				
1.	天使の歌声	シャルロット・チャーチ	1999.02.20	SME
2.	アバ・パテル	ヨハネ・パウロ二世	1999.03.25	SME
3.	ヨーヨー・マ ベスト・アルバム	ヨーヨー・マ	1998.10.01	SME
4.	ヨーヨー・マ・ブレイズ・ピアソラ	ヨーヨー・マ	1997.10.29	SME
5.	ライヒ:リミックス	スティーヴ・ライヒ	1999.03.25	WJ
6.	シンプリー・バロック	ヨーヨー・マ	1999.01.27	SME
7.	幻のショパン	マルタ・アルゲリッチ	1999.04.09	TO
■洋楽アルバム BEST7				
1.	NOW BEST	クイーン 他	1999.04.09	TO
2.	ダンスマニアX2	キャプテン・ジャック 他	1999.04.09	TO
3.	FANMAIL	TLC	1999.03.06	BMG
4.	グレイテスト・ムービー・ソングス	セリーヌ・ディオンの、ローリン・ヒル 他	1999.03.25	SME
5.	ダンスマニア・スピード2	バス・ストップ/サラ・ワシントン 他	1999.03.03	TO
6.	プレイング・マイ・ゲーム	レネ・マーリン	1999.03.03	TO
7.	ファイナリー	ブラックストリート	1999.03.20	UV

※AL: アルファミュージック/AO: アメモラ・オータウン・レコード/AR: アンティノスレコード/AVT: エイベックス/BG: ビーグラムレコーズ/BM: ルームレコーズ/BME: バンダイ・ミュージックエンタテインメント/BMG: BMGジャパン/C: 日本コロムビア/CA: カナリー企画/CR: 日本クラウン/CT: カットニング・エッジ/EP: ゼティマ/EW: イーストウエスト・ジャパン/FH: ファンハウス/EL: フォーライフレコード/JE: ジャニーズ・エンタテインメント/JF: J-FRIENDS P./K: キングレコード/KT: キティエンタープライズ/ME: メルダック/MME: マーキュリー・ミュージックエンタテインメント/PC: ポニーキャニオン/PG: ポリグラム/PI: パイオニアLDC/PO: ポリドール/PS: ポリスター/QT: パルコ/RO: ロックイットレコード/SME: ソニー・ミュージックエンタテインメント/SN: SEHNA & CO./TA: ニュートーラス/TDK: TDKコア/TE: テイチク/TF: トイズ・ファクトリー/TJC: 徳間ジャパンコミュニケーションズ/TO: 東芝EMI/UV: ユニバーサル ビクター/V: ビクターエンタテインメント/VAP: バップ/VF: ヴェルファーレ/WJ: ワーナーミュージック・ジャパン/XR: ゼロ・コーポレーション/ZA: ズインレコーズ

GOLD ALBUM他 認定作品 1999年4月度(99年3月21日~99年4月20日)

■アルバム (25作品)

【邦 楽】

●6ミリオン

First Love/宇多田ヒカル/1999.03.10 (TO)

●2ミリオン

Every Best Single+3/Every Little Thing/
1999.03.31 (AVT)

●クワドラブル・プラチナ

SA/鈴木あみ/1999.03.25 (SME)

●トリプル・プラチナ

Wasted Tears/浜田省吾/1989.09.01
(SME)

●プラチナ

FOUR SEASONS/THE YELLOW MONKEY/
1995.11.01 (C)

花鳥風月/スピッツ/1999.03.25 (PO)

Precious/Cubic U/1999.03.31 (TO)

FIRST REPRODUCTS/globe/1999.03.31
(AVT)

baby Blue/Hysteria Blue/1999.04.01
(SME)

●ゴールド

全曲集~川の流れるように~/美空ひばり/
1992.11.21 (C)

変身/オリジナル・ラヴ/1999.03.17 (PC)

Phase/SURFACE/1999.03.17 (MME)

ASKA the BEST/ASKA/1999.03.31 (TO)

44982 VS 1650/JUDY AND MARY/
1999.03.31 (SME)

KNOCKIN' "T" AROUND/松本孝弘/
1999.04.14 (BM)

マテリアル/SOPHIA/1999.04.14 (TF)

【洋 楽】

●ダブル・プラチナ

ヨーヨー・マ・プレイズ・ピアソラ/ヨーヨー・
マ/1997.10.29 (SME)

FANMAIL/TLC/1999.03.06 (BMG)

●プラチナ

別れの曲/ショパン・ピアノ名曲集/アルトゥー
ル・モレイラ=リマ他/1990.11.21 (C)

ダンスマニア・スピード2/バス・ストップ、サ
ラ・ワシントン他/1999.03.03 (TO)

NOW BEST/クイーン他/1999.04.09 (TO)

●ゴールド

ヘンステッド・ハイ/A+/1999.01.21 (UV)

ULTRA DANCE 1/スーパーガール他 /
1999.03.03 (AVT)

グレイテスト・ムービー・ソングス/セリーヌ・デ
イオン、ローリン・ヒル他/1999.03.25 (SME)

ダンスマニアX2/キャプテン・ジャック他/
1999.04.09 (TO)

■シングル (16作品)

【邦 楽】

●ミリオン

HEAVEN'S DRIVE/ラルク・アン・シエル/
1999.04.21 (SME)

●ダブル・プラチナ

やめないで, PURE/BABY LOVE/KinKi Kids/
1999.02.24 (JE)

●プラチナ

Let yourself go, Let myself go/Dragon
Ash/1999.03.03 (V)

my first love/上原多香子/1999.03.25 (TF)

●ゴールド

believe/Yuko Yamaguchi/1999.02.26
(MME)

イエローマン~星の王子様~/サザンオールスター
ズ/1999.03.25 (V)

ビューティフル/SOPHIA/1999.03.25 (TF)

MISS YOUR BODY/globe/1999.03.25
(AVT)

THE CHANGING/松本孝弘/1999.03.25
(BM)

Believe Your Smile/OPEN THE GATE/V6/
20th Century/1999.03.31 (AVT)

なんて恋したんだろう/DREAMS COME
TRUE/1999.03.31 (TO)

ピカピカ/川本真琴/1999.04.01 (SME)

MIND GAMES/ZARD/1999.04.07 (BG)

さよならじゃない/ Something Else/
1999.04.09 (TO)

LOVE~Destiny~/LOVE~Since 1999~/浜
崎あゆみ/浜崎あゆみ&つんく/1999.04.14
(AVT)

【洋 楽】

●ダブル・プラチナ

Eyes On Me featured in Final Fantasy VIII/フ
ェイ・ウォン/1999.02.24 (TO)

レコード生産実績

1999年4月度(99年4月1日～99年4月30日)

数量：千枚・巻

単位

金額：百万円

表1. オーディオレコード

	4月実績						1999年(1月～4月)累計							
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比		
C	8センチ	邦	7,590	22	39	5,045	12	40	44,332	29	69	27,834	15	71
		洋	97	0	28	64	0	28	399	0	78	248	0	82
	計	7,686	22	39	5,109	12	40	44,731	29	69	28,082	15	71	
D	12センチ	邦	18,378	53	111	26,408	61	89	77,078	50	121	119,083	63	108
		洋	7,021	20	98	9,982	23	96	25,227	16	86	37,294	20	89
	計	25,399	73	107	36,391	85	91	102,304	66	110	156,378	82	103	
D	小計	邦	25,968	75	73	31,453	73	75	121,409	79	95	146,917	77	98
		洋	7,117	20	95	10,047	23	95	25,626	17	86	37,542	20	89
	計	33,086	95	77	41,500	97	79	147,035	96	93	184,459	97	96	
アナログディスク		邦	39	0	47	35	0	31	534	0	283	535	0	234
		洋	37	0	195	59	0	277	144	0	187	222	0	222
	計	75	0	74	94	0	70	678	0	255	757	0	230	
合計		邦	26,007	75	73	31,488	73	74	121,944	79	95	147,453	78	98
		洋	7,154	21	95	10,106	24	95	25,769	17	86	37,764	20	89
	計	33,161	95	77	41,594	97	79	147,713	96	93	185,216	97	96	
カセットテープ		邦	1,634	5	100	1,373	3	108	6,128	4	90	4,935	3	94
		洋	17	0	317	13	0	149	39	0	97	35	0	76
	計	1,651	5	101	1,386	3	109	6,167	4	90	4,970	3	93	
総合計		邦	27,641	79	74	32,861	76	75	128,072	83	95	152,388	80	98
		洋	7,171	21	95	10,119	24	95	25,809	17	86	37,799	20	89
	計	34,811	100	77	42,980	100	79	153,880	100	93	190,186	100	96	

表2. ビデオレコード

	4月実績						1999年(1月～4月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
ディスク	547	22	83	1,396	17	83	2,688	27	74	6,684	21	71
テープ	1,914	78	106	6,610	83	114	7,164	73	94	24,625	79	100
合計	2,461	100	99	8,005	100	107	9,852	100	87	31,309	100	92

表3. オーディオ/ビデオ合計

	4月実績						1999年(1月～4月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ	34,811	93	77	42,980	84	79	153,880	94	93	190,186	86	96
ビデオ	2,461	7	99	8,005	16	107	9,852	6	87	31,309	14	92
合計	37,272	100	79	50,985	100	83	163,732	100	93	221,496	100	96

<参考>表4. 複合型CD (CD-G、CD-I、CD-ROMなど)

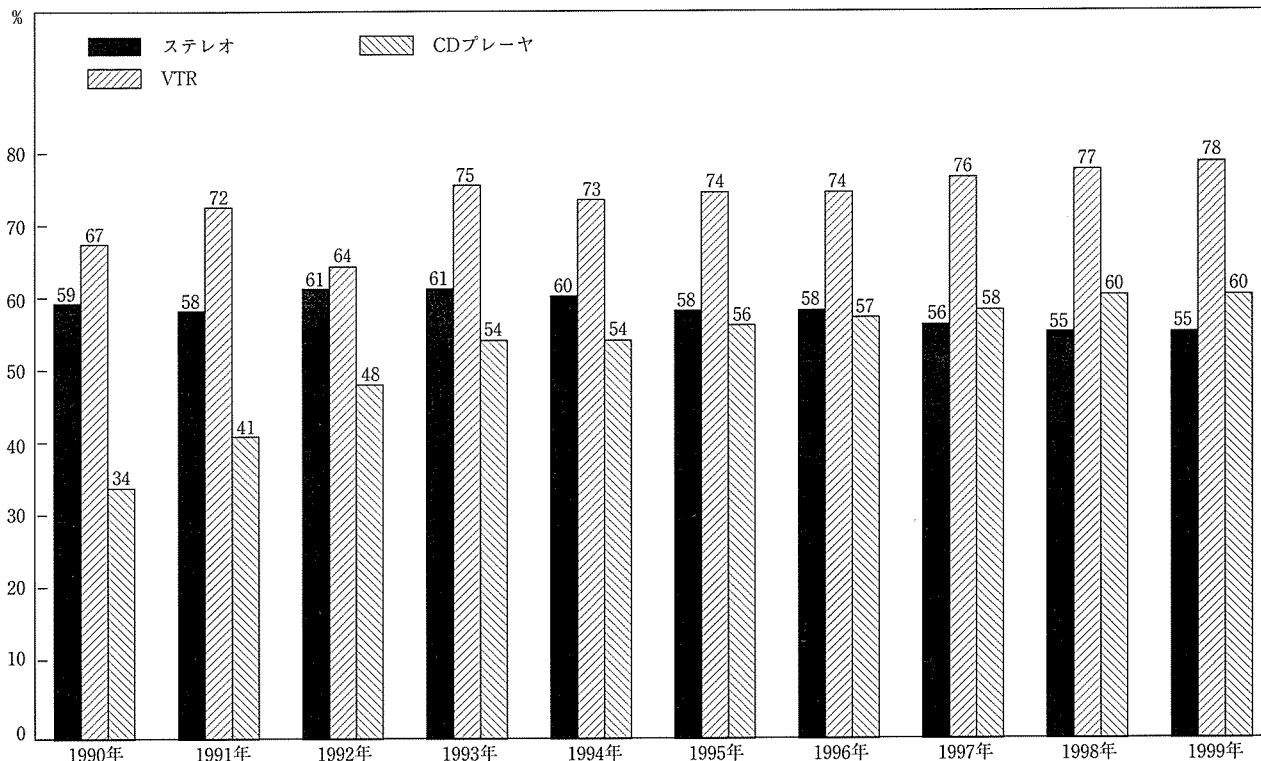
	4月実績						1999年(1月～4月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
邦盤	8,151	100	88	1,425	100	95	50,786	100	95	9,166	100	102
洋盤	0	0	100	1	0	100	2	0	5	5	0	4
合計	8,152	100	88	1,426	100	95	50,788	100	95	9,171	100	100

備考 1. 本年実績は、会員会社「22社」の集計である。当会員会社が受託した非会員会社が受託した非会員会社からの販売委託分を含む
 2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。

耐久消費財の保有状況

本号は、経済企画庁が毎年3月に全国の普通世帯を対象に行っている「消費動向調査」から、レコード産業に関連のある耐久消費財を中心に、その保有状況を紹介します。

図 ステレオ、VTR、CDプレーヤの普及率推移



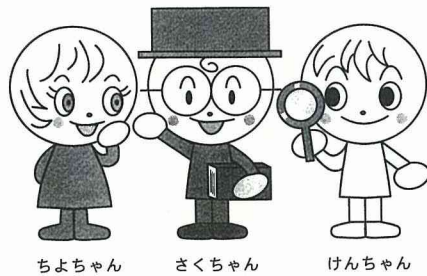
(注) 経済企画庁「消費動向予測調査」より。

表 地域別主要耐久消費財の保有状況 (1999年3月末現在)

単位：%、台

地域		ステレオ	VTR	CDプレーヤ	ビデオディスクプレーヤ	カラオケ装置	カラーテレビ	ピアノ	電子鍵盤楽器
全国	普及率	54.6	77.8	60.1	15.2	11.2	99.0	22.9	16.0
	保有数	77.7	117.3	80.8	18.2	12.3	224.1	23.2	16.9
北海道／東北	普及率	52.6	79.3	61.7	11.9	13.0	99.2	19.9	15.3
	保有数	73.4	111.3	78.5	13.7	13.8	211.9	20.1	16.1
関東	普及率	60.9	78.8	64.8	16.5	9.9	98.4	21.9	17.5
	保有数	87.7	121.7	91.0	19.4	11.3	212.8	22.1	19.4
北陸／甲信越	普及率	51.1	74.6	56.1	21.6	13.3	99.1	26.6	16.0
	保有数	74.9	118.5	77.0	27.7	14.2	264.5	26.6	16.6
東海	普及率	58.9	81.3	58.0	13.2	11.9	99.3	26.1	15.9
	保有数	83.6	125.9	78.1	14.7	13.6	239.2	27.0	16.9
近畿	普及率	58.3	78.7	59.5	15.2	9.5	99.4	25.3	15.1
	保有数	85.6	125.6	82.8	20.0	10.8	231.8	26.0	15.4
中国／四国	普及率	50.1	76.5	57.5	16.7	12.4	99.3	23.4	15.2
	保有数	70.0	114.7	74.3	20.7	13.1	250.6	23.8	15.4
九州／沖縄	普及率	41.5	73.4	55.8	11.5	10.7	98.7	19.4	15.3
	保有数	55.3	98.5	70.0	12.4	11.8	185.2	19.5	16.0

(注) 経済企画庁「消費動向予測調査」より。保有数は100世帯当たりの保有台数。



ちよちゃん

さくちゃん

けんちゃん

著作権法100年

copyright law centennial anniversary

RIA 1999年6月号
Recording Industry Association of Japan

発行人 池口 頌夫

編集人 木村 三郎

発行日 1999年6月10日

発行 社団法人 日本レコード協会

〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-3 日鐵木挽ビル2F

TEL.03-3541-4411 (代)

FAX.03-3541-4460 (代)

URL:<http://www.japan-music.or.jp/>